

おうきゅうてあて
【応急手当】

ひと たお
人が倒れています！！

ひと たお たす
「人が倒れています、助けてください」

てつだ ひと よ
と手伝ってくれる人を呼びます。



「わかりますか？」^{だいじょうぶ}「大丈夫ですか？」と^{こえ}声をかけます。



だいじょうぶ
大丈夫ですか？

◎ いしき
意識がありません。→ AED・^{しんぱいそせい}心肺蘇生

◎ いしき
意識があります。

◇ ^{かおいろ}顔色を^み見てください。

あお青いです。→ショック状態→毛布などで保温します。

◇痛いところがあるか聞いてください。→骨折や出血があるかもしれないです。

◇出血していますか。→出血しています。→止血します。

◇手や足の形は正常ですか。

→普通ではない。→骨折しています。→応急手当

自分の安全を第一に考えてください。

手当などをする時は、けがや病気の人に、声をかけます。

応急手当をしてから、けがや病気の人を安全な所に運びます。

《出血の手当》

からだなかの30%（さんじゅつぱーせんと）の血液がなくなると命が危なくなります。

出血量が多い時はすぐに止血が必要です。

〈手で止血する方法〉

※ハンカチやきれいなガーゼを傷口に当てて、押さえます。

※けが人の血液に直接接触すると、けが人が病気

だったときに病気が移る場合があるので、

感染を防止するためにビニール袋や

ビニール・ゴムの手袋を使って止血します。



※ 片手で押さえ ても 血が止まらない ときは 両手で 体重 を乗せて押します。

ぬの しけつ ほうほう
〈布で止血する方法〉

※できるだけ幅が3cm(さん せんちめーとる)以上 の布 (スカーフや包帯など)を使います。

① きずぐち がーぜ などの きれいな ぬの を あてます。

① ぬの を入れて、ゆるく むす びます。

② ぼう などを 入れます。

⑤ ぼう を ちが とまる まで まわ します。

⑥ ぼう が 動かない ように します。



⑦ しけつ はじ じかん か さんじゅつぶん かい まわ ぬの
止血を始めた時間を書いて おきます。30分に1回は回した布をゆるめて、

うで さき ち なが
腕の先にも 血が流れる ようにします。

※ ゆるめる時間は1～2分で よいです。皮膚が少し赤くなり、

きずぐち ち すこ で
傷口から血が少し出る ぐらいです。

こっせつ てあて 《骨折の手当》

こっせつ ところ うご 骨折した 所 を動かない ように固定すると、^{こてい} 治り ^{なお} やすくなる、^{いた} 痛く なくなる、など ^{よい} 良い事

があります。^は 腫れている ^{ところ} 所、^{とも} とても ^{いた} 痛がっている ^{ところ} 所 も骨折している ^{こっせつ} かも かもしれません

ので、^{こてい} 固定 します。

て ^{こていほう}
〈手の固定法〉

* **×** ^{こっせつ} は骨折した ^{ところ} 所 です。

ざっし しんぶんし だんぼーる ^{つか} 雑誌・新聞紙・ダンボールなどを ^{うご} 使って動かないように します。

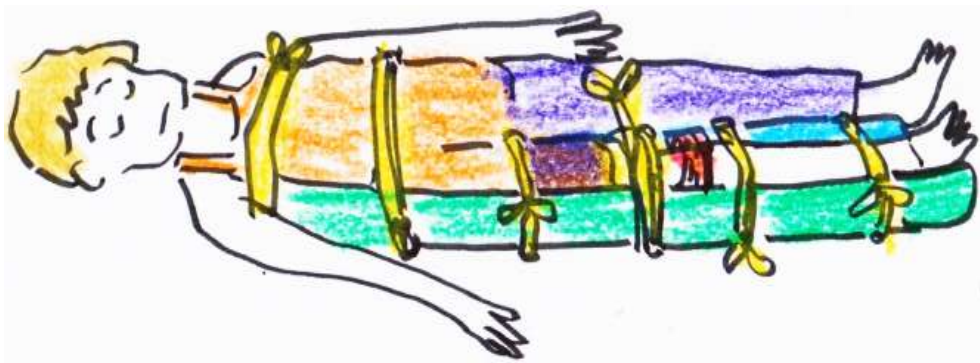
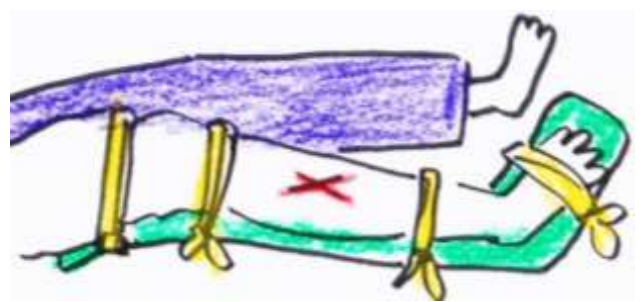
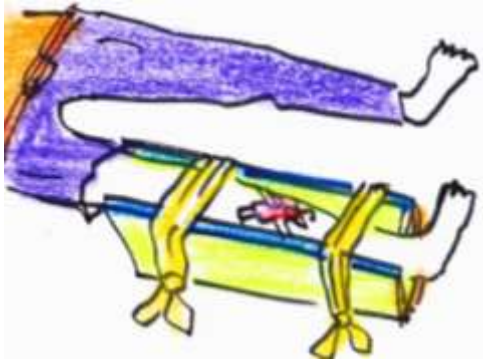


^{さんかくきん} 三角巾や ^{すかーふ} スカーフなどを ^{つか} 使って腕をつります。

^{なが} 長い ^{ぬの} 布で ^{さんかくきん} 三角巾を ^お 押さえて、^て 手が ^{うご} 動かない ように します。



あし こていほう
〈足の固定法〉



かさ・ダンボールなどで けがをしたあしが動かないようにします。

《けがや病気で歩けない人を運ぶ方法》

ちゅうい
〈注意すること〉

※まず必要な応急手当をします。

※運んでいる時もけがや病気の人のよく見てください。

※運こんでいる人に意識がある時は「痛いですか?」「苦しいですか?」と聞いたり、

「元気を出して」と声をかけてください。

たんか はこ ほうほう
 〈担架で運ぶ方法〉

③ たんか も 持って きて 来ます。

もうふ などを たんか に 敷きます。

たいおん が 下がらない ように 保温 します。



② けが や 病 気 の 人 を ゆっく り たんか に の 乗 せ ます。

けが や 病 気 の 人 を たんか に の 乗 せ る 時 は

あたま を ささ げ ます、そし て、「1・2・3 はい」や

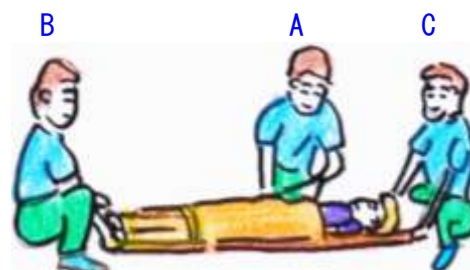
「せーの」の かけ 声 で 乗 せ ます。



③ たんか も ひと びー しー む あ ほう も 持 ち ます。

せ なか の 伸 ば し て すわ り、あし ちから い て た ち ます。

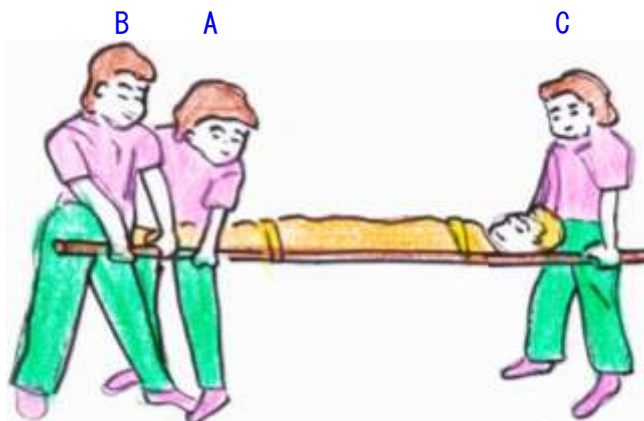
(せ なか の 伸 ば し て い な い と こし い た 腰 が 痛 く な り ます。)



④ ほう も 持 っ て い な い 人 (A) が あし ほう ほう も 持 ち ます。

たんか あし ほう ひと びー
 担架の足の方の人(B)は

まえ を 向 っ て 持 ち ます。

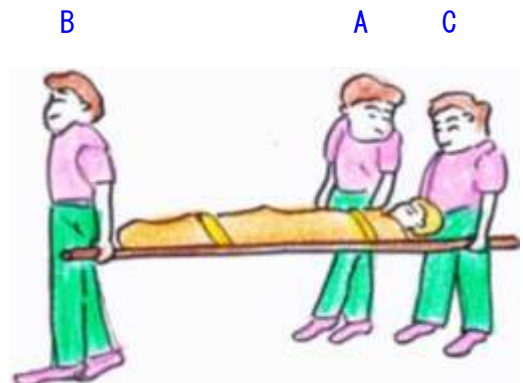


⑤ たんか あし ほう ひと びー ひだりあし
担架の足の方の人(B)は左足から、

あたま ほう ひと しー みぎあし ある はじ
頭の方の人(C)は右足から、歩き始めます。

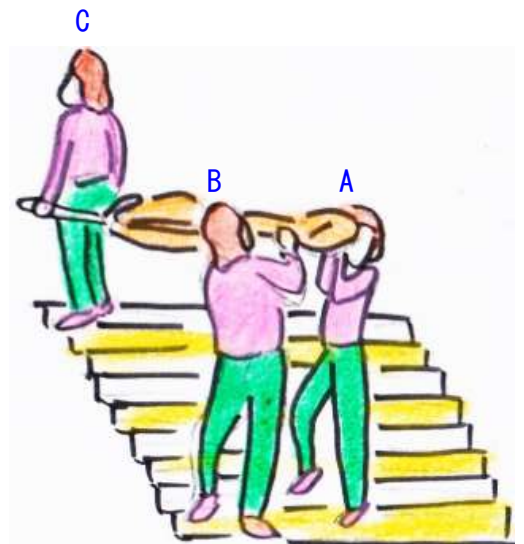
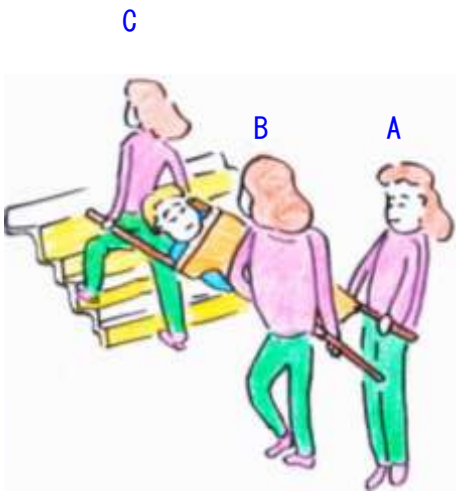
おな あし ある はじ たんか
(同じ足から歩き始めると、担架がゆれて、

あんぜん はこ
安全に運べません。)



かいだん はこ とき
[階段を運ぶ時]

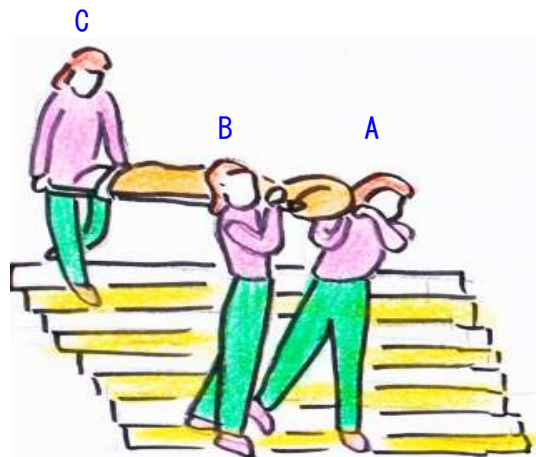
のぼ とき あたま ほう まえ
昇る時は頭の方を前にします。



お とき あし ほう まえ
降りる時は足の方を前にします。

たんか の ひと あたま ひく
(担架に乗っている人は頭が低く

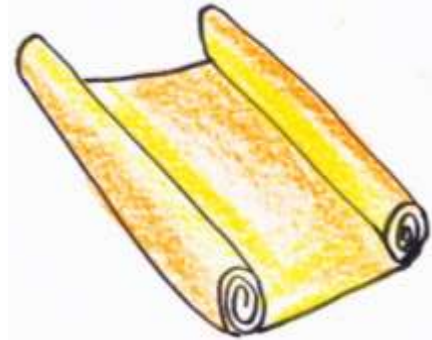
なると 怖く なります。)



たんか つく かた
〈担架の作り方〉

① 毛布（ブルーシートでもいいです。）のはしをしっかりと丸めます。

よにんじょう まる ところ も
4人以上で丸めた所を持ちます。



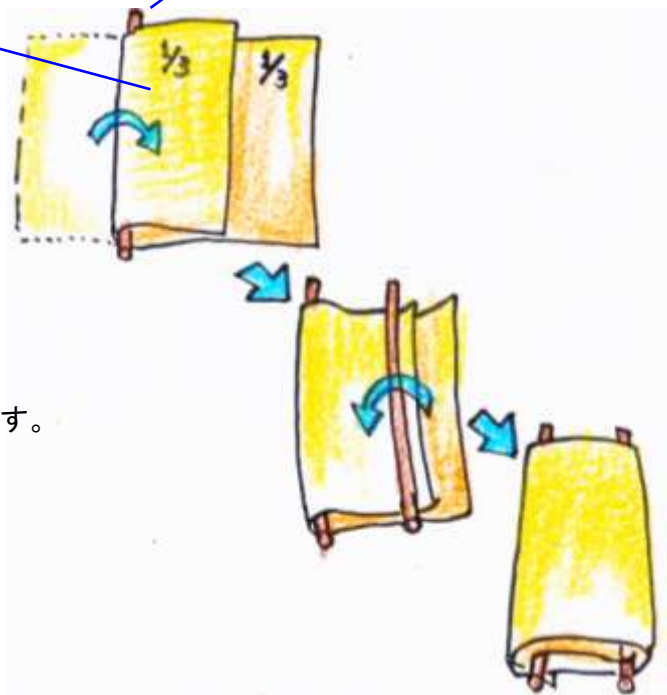
② 毛布と長さ180cm（ひゃくはちじゅっせんちめーとる）以上の棒（鉄パイプ・竹・木）で作ります。

1. 棒を毛布の1/3（さんぶんのいち）

の所に置きます。

2. 棒の所まで毛布を折ります。

3. もう1本の棒を毛布に置いて、折ります。



③ 棒と服で作ります。

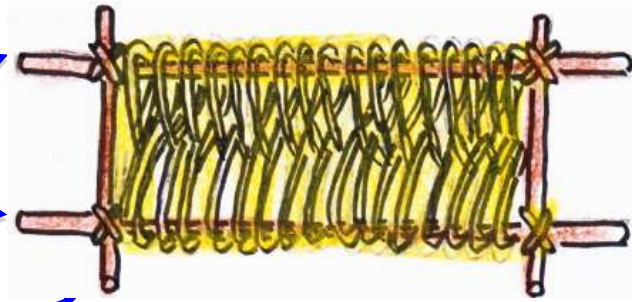


④ ぼうろーぶにつく
棒とロープで作ります。

1. ぼうへいこうなら
棒を平行に並べます。

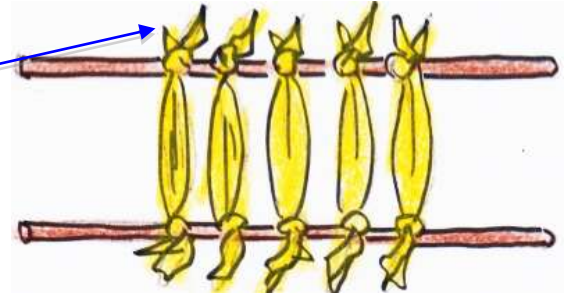
2. ろーぶえすじがたま
ロープをS字型に巻きます。

3. ろーぶまぼうみじかぼう
ロープを巻いた棒に短い棒を付けるといいです。



⑤ ぼうさんかくきんにつく
棒と三角巾で作ります。

へいこうならぼうさんかくきんむす
平行に並べた棒に三角巾を結びます。



たんかつかはこほうほう
〈担架を使わないで運ぶ方法〉

ひとりはこほうほう
[1人で運ぶ方法]

※ できるだけ1人で運ばないで、助けを呼んでふたりいじょうはこ
2人以上で運んでください。

※ けがや病気の人の腕を持って運びます。



もうふ しろつ つか はこ
毛布や シーツを使って運びます。



ふたり はこ ほうほう
[2人で運ぶ方法]

ひとり あし こうさ も
1人が足を交差させて持ちます。

ひとり せなか ささ うで も
もう1人が背中を支えて腕を持ちます。



すわ かたち せなか ふたり ささ
いすに座る形にして背中を2人で支えます。



けが びょうき ひと すわ はこ
けがや病気の人をいすに座らせて運びます。

ひも や 布で けが びょうき ひと しば
ひもや布でけがや病気の人をいすに縛ります。

※ けが びょうき ひと あたま まえ たお いき
けがや病気の人の頭が前に倒れると息ができなくなるので、気をつけます。



さんにん はこ ほうほう
[3人で運ぶ方法]

- ① はこ ひと びょうき ひと あたま ほう
運ぶ人は けが や 病 気 の 人 の 頭 の 方 の

あし た すわ
足 を 立 て て 座 り ま す。

- ② りょううで
両 腕 を し っ か り けが や 病 気 の 人 の

した
下 に い れ ま す。



- ③ あたま ささ
頭 を 支 え ま す、そ し て、「1・2・3 はい」や

「せーの」の かけ 声 で た
立 ち ま す。

